

革共同とは

革共同は、反帝国主義・反スターリン主義世界革命に勝利し、共産主義社会を実現することを究極の目的としている革命党です。私たちは、ソ連共産党や中国共産党の「共産主義」とその運動は、ロシア革命とマルクス主義の原点、プロレタリア自己解放の原点をを裏切り、スターリン主義反革命に変質したと規定し、1950～60年代にスターリン主義から決別した国際共産主義運動の再建をめざした反スターリン主義・革命的共産主義運動として自己を形成し、40年以上闘ってきました。

そして、1970年とその前後の階級的決戦期に、反帝・反スターリン主義世界革命の一環としての日本プロレタリア革命の実現にむかって、「闘うアジア人民と連帯し、日帝のアジア侵略を内乱に転化せよ」「米軍基地撤去＝沖縄奪還、安保粉碎・日帝打倒」の戦略的総路線を確立し、以来、日本帝国主義の侵略と戦争、国内政治反動の攻撃と全面的に対決して、労働者階級・人民大衆の先頭にたって闘いぬいています。

日帝国家権力の弾圧やカクマルなどのファシスト反革命の襲撃をはね返すために、非合法・非公然体制および革命軍と自衛武装体制をもって闘うと同時に、社会党(現・社民党)や日本共産党(スターリン主義)に代わる労働者党をつくりあげるために、労働運動の階級的・戦闘的再生の闘いに全力を投入しています。

革共同は、プロレタリアートの武装蜂起によって帝国主義国家権力を暴力的に打倒し、日本 世界革命を実現し、労働者階級・人民大衆が主人公となる社会を築きあげることで、戦争と搾取・収奪、あらゆる差別・抑圧をなくし、現代社会の矛盾と諸問題を解決していくことができると考えています。

革共同とともに、私たちの前にある現実には立ちむかい、革命に勝利するために闘いに立ちあがることを呼びかけます。

(革共同＝中核派、ホームページより。下線は野村)

http://www.zenshin.org/f_zenshin/f_back_no01/f2003.htm

週刊『前進』(2003号4面2)

4・14 “ゆるすな！ 教育改悪” 百万人署名集会に450人

四月十四日、東京・千代田区公会堂で行われた「ゆるすな！ 教育改悪 つぶそう！ 有事立法／とめよう戦争への道／四・一四全国集会」に参加しました。「とめよう戦争への道！ 百万人署名運動」主催の集会で、全国から四百五十人が集まり、熱気あふれるすばらしい集会でした。

元日教組書記長の中小路清雄さんの開会あいさつに続いて、「教育基本法改悪と改憲をゆるさないために」と題する新潟大学教授の成嶋隆さんの講演が行われました。成嶋さんは、一九五〇年代以来の三度の大きな改憲攻撃の軌跡と教科書攻撃の軌跡が重なることを歴史を追って明らかにしました。

講演を聴きながら、侵略戦争の歴史を否定し戦争を賛美する「つくる会」教科書と、戦争放棄の九条改憲の動きが、実は一体のものなのだと思います。

ガイドライン関連法に反対して五万人が集まった九九年の「ストップ戦争法！ 五・二一全国大集会」を呼びかけた二十団体のひとつの航空安全会議の代表は、民間航空会社への米軍輸送資格の取得要請や有事立法の動きなどを弾劾し、今後の闘いについて力強く訴えました。戦争を止める労働者の闘いは必ずつくれる、と実感させる発言でした。

出版労連教科書対策部からの「つくる会」教科書採択阻止の訴えの後、韓国の金泳鎮議員の国会前でのハンストについて日本カトリック正義と平和協議会の木邨健三さんから連帯の特別報告が行われました。

続いて「沖縄うない五十五年」と題する桑江テル子さんの一人芝居が始まりました。わずかな時間の芝居でしたが、沖縄戦に始まり現在までの沖縄の女性(うない)の五十五年間を凝縮して一気に伝える衝撃的な芝居でした。あらためて九五年十・二一県民大会の原点とは何だったのかを考えさせられました。

広島からの訴えとして、広島県教組書記長の山根基嗣さんが、教育基本法の見直し要求と教育関連法案を廃案にするために、改憲・戦争につながる「教育改革」に反対する署名 を呼びかけました。「教育基本法改悪が前提化されたような何でもありの教育行政と闘う広島から全国に発信したい」と訴えました。

多摩教組、千葉県高教組、三重県教組、北海道教組からは、卒・入学式での「日の丸・君が代」との闘いや組合つぶし攻撃との闘いの教訓に満ちた報告が行われました。それぞれがねばり強く元気に闘っていて感動しました。また呼びかけ人で文芸評論家の中島誠さん、福岡県教組元委員長の梶村晃さん、百万人署名運動事務局長の西川重則さんの訴えがありました。

最後に百万人署名運動事務局次長の小田原紀雄さんが「とめよう戦争への道」の闘いとして、地域で、全国で教育改革・教科書改悪阻止のうねりをつくりだそうと行動提起しました。

運動の輪を広げ、戦争を肯定する「つくる会」の教科書採択をなんとしても阻んでいきたいと思います。(投稿 佐野まさる)

http://www.zenshin.org/f_zenshin/f_back_no02/f2056.htm

週刊『前進』(2056号5面1)

労働者階級先頭に人民の総決起を 排外主義と対決し有事立法粉碎へ

5・24 明治公園 4万人余が廃案を誓う “6月に再度大結集を” 20労組など呼びかけ

5月24日、陸・海・空・港湾労組20団体、平和をつくり出す宗教者ネット、平和を実現するキリスト者ネットが呼びかけた「STOP！有事法制5・24大集会」には、明治公園を埋め尽くす4万人を超える労働者人民が大結集した。

集会の最後に、航空労組連絡会の内田妙子議長が、決意と気迫に満ちた閉会宣言を行った。「この大集会には、4万人を超える仲間が参加していただきました。本当にありがとうございます。この会場には、運動方針などいろいろな制約をのりこえてご参加いただいた労働組合の仲間もいらっしゃいます。みなさまの行動は本当に素晴らしいと私は思います。国会の状況は非常に緊迫しています。有事法制の廃案を強く求めている私たちにとっては、今が有事そのものです。この集会で運動を休むわけにはいきません。来週早々から、廃案を求める運動を一層強めて、行動する必要があります。具体的な行動が決定された時には、みなさまの参加を呼びかけさせていただきます。また今後の情勢によっては、6月の中ごろに、今日よりももっともっと大きな運動を提起するつもりです。日本の平和、そして世界の平和を願う全国の人びとの力を合わせて、この有事法制を必ず廃案にしましょう」

ナショナルセンターや立場の違いを超えて結集した4万人の思いを体現した内田さんの戦闘宣言に、割れんばかりの拍手が鳴りやまない。6月半ばには再度大結集して必ず廃案にするという思いをひとつにした。

集会に先立ち午後6時からジャズバンドの演奏が行われる中、続々と結集が続いた。労組、市民団体などの旗、のぼりが林立し、反戦共同行動委員会は「5・26 芝公園へ」と大書した横断幕を高々と掲げた。

午後6時半、純白の制服に身を包んだ現役の船員が打ち鳴らした‘出航’のドラで大集会が始まった。

呼びかけ団体の「平和をつくりだす宗教者ネット」を代表して、日本山妙法寺の木津博充上人が開会を宣言。「ここにお集まりになられた方々の共通の強い願いは、すべての人間のいのちと安全を守りたい、平和な世界を築きたい、日本が戦争をする国になってほしくない、ということです。私たちが今、さまざまな違いをこえて一致して求めているものは、有事法制の廃案です」。会場に「そうだ！」の声が響く。

集会の進行役は、「絶対従軍看護婦にはなりません」と宣言した堂蘭幸子さんと、「私は、軍事輸送に協力しないパイロットです」と自己紹介した矢島秋仁さんが務めた。

「有事法制廃案のアピール」として、「国会の中から」、日本共産党の志位和夫委員長、民主党の生方幸夫衆院議員、無所属の中村敦夫参院議員、社会民主党の土井たか子党首が発言。

「国会の外から」は日本青年団協議会、小平市議の橋本久雄さん、全労連、カトリック正義と平和協議会会長の松浦悟郎司教、許すな！憲法改悪市民連絡会、東京高校生平和ゼミナールの高校生が発言した。

キリスト者・宗教者平和ネットを代表して発言した松浦悟郎司教は「日本にはアジア・

太平洋地域の2千万人も戦争犠牲者に対する重要な責任があります。広島に『安らかに眠りください。過ちは繰り返させぬから』とあります。過ちを繰り返さず、平和を貫くことだけが、戦争犠牲者の死に向き合うことです。世界の平和を踏みにじる有事法制を廃案に持ち込みましょう」

最後に航空連・内田議長のリードで、集会統一スローガンを参加者全員で唱和した。「有事法制反対！ いのちと安全を守ろう！ 平和な日本を築こう！ 世界の平和を築こう！ 戦争協力反対！ 加害者にも被害者にもならないぞ！ 有事法制反対！」「反対！」「反対！」「反対！」。色とりどりの光のスティックを掲げながら、4万人の声が響き渡った。

さあ、デモに出発だ。デモは国会コース、代々木公園コース、新宿コースの3コースに分かれた。国会コースの先頭には、登壇者と、呼びかけ団体である宗教者ネット、キリスト者ネットが立った。陸・海・空・港湾労組 20 団体の気合いの入ったデモは圧巻だ。「有事法制反対」のポスターを掲げた港湾労働者。航空労働者は「航空の安全をおびやかす有事法制反対」「民間航空を戦争にまき込む有事立法は止めよ！」など多くののぼりを掲げた。海員はマリンプルーの「全日本海員組合」の旗を林立させた。

「とめよう戦争への道！ 百万人署名運動」は新宿コースのデモに立った。4万人がデモに出発するには1時間かかる。音楽演奏が続く中、独自の集会が行われ、6月へさらに運動を強化することが確認された。

反戦共同行動委、動労千葉の労働者、新入生も多く参加した全学連の隊列はとりわけ勢いがあり、注目を浴びた。新宿の解散地まで光のスティックをかざしたデモ隊が延々と続いた。

有事立法絶対阻止へ巨大な総反撃が開始された。昨年9・11反米ゲリラとアフガニスタン侵略戦争突入、パレスチナ人民虐殺戦争への決死の抵抗闘争の爆発という大激動の中で、ついに日本の労働者人民の4万人の大決起がかちとられたのだ。この力をさらに発展させていけば、成立は絶対に阻める。6月中旬の大闘争へ、全力で総決起しよう。

http://www.zenshin.org/f_zenshin/f_back_no02/f2082.htm

週刊『前進』(2082号4面3)

福岡 米領事館にデモ “戦争とめよ”と250人

福岡市・天神の警固公園で12月1日、「アメリカのイラク攻撃を許さない！はじまる前に戦争をとめよう！12・1集会」(実行委員会主催)が行われた。統一戦線の広がりの中、福岡を中心に山口や佐賀、長崎から250人が結集した。

実行委員会の青柳行信さん(カトリック福岡正義と平和協議会)があいさつ。渡辺ひろ子さん(平和といのちをみつめる会)が日出生台での日米共同演習反対闘争の報告を行った。

韓国、フィリピン、米国からゲストも参加した。韓国から来た李寿甲さん(韓国AWC)は「ブッシュと小泉は国家テロリスト。民衆の闘いで国家テロを粉碎しよう」と檄を飛ばした。

米領事館までのデモは、写真プラカードや英語のメッセージボード、風船、楽器なども交え、市民の共感と注目を集めた。

領事館前で有事立法粉碎実行委員会・福岡の梶村晃さんが「日本の参戦を許さない」と提起した。米国から来たジェニファー・サウアーさんは「民衆が団結したらイラク戦争をストップできる」とアピール。代表団が要請文を領事館にたたきつけた。

(警察庁資料)

http://www.npa.go.jp/seisaku_hyoka/kekka-h13jisseki/5.2.htm

基本目標5 国の公安を維持する

業績目標2 警備犯罪取締りの推進

(1)極左暴力集団関係

極左暴力集団のうち、革マル派、中核派、革労協といった主要セクトの「テロ・ゲリラ」、内ゲバ企図事件の未然検挙及び非公然アジトや調査活動の摘発等を通じ、「テロ・ゲリラ」事件等の非公然・非合法活動を抑制した。

「極左暴力集団」とは、社会主義、共産主義革命等を目指して、我が国の民主主義体制を暴力によって転覆することを企てている集団であり、爆弾、迫撃弾、時限式発火装置等を使用して凶悪な「テロ、ゲリラ」事件をはじめ各種違法事案を引き起こすなど、社会に多大の被害を与えている。

「革マル派」は、昭和50年代初めまでは対立する中核派、革労協との間で数多くの内ゲバ事件を引き起こしていたが、昭和54年以降組織拡大に重点をおき、党派性を隠して基幹産業の労働組合など各界各層への浸透を図るなど、極めて非公然性の強い組織である。

一方、非公然組織が対立する団体や個人に対して住居侵入、窃盗、電話盗聴等の違法行為を組織的に引き起こしている。

「中核派」は、「テロ、ゲリラ」の専門部隊である非公然組織を擁し、成田闘争等において爆弾等を使用したテロ、ゲリラ事件を多数引き起こしている。また、これまで対立している革マル派とは、数多くの内ゲバ事件を引き起こしている。最近では、組織拡大に力を入れており、市民団体や労働組合等への浸透を図っている。

「革労協」は、「テロ、ゲリラ」の専門部隊である非公然組織を擁し、皇室闘争、成田闘争等を中心に爆弾などを使用した凶悪なテロ、ゲリラ事件を多数引き起こしている。同派は、平成11年5月、組織内対立により主流派と反主流派に分裂し、その後、相互で13件の内ゲバ事件を引き起こし8人が死亡している。

【事例】

革労協主流派内ゲバ部隊員の検挙(2月・神奈川)

革労協反主流派活動家に対する内ゲバ襲撃を企てていた革労協主流派の内ゲバ部隊員4人を逮捕した。

中核派非公然アジトの摘発及び同派非公然活動家の検挙(5月・兵庫)

中核派非公然アジトを摘発するとともに、同アジトにおいて「昭63.9.21千葉県収用委員会会長襲撃事件」の被疑者として全国に指名手配されていた同派非公然活動家を発見、逮捕した。

革マル派非公然アジトの摘発及び同派非公然活動家の検挙(6月・神奈川)

都内に所在する革マル派非公然アジトを摘発するとともに、警察無線を傍受するなどして指名手配されていた同派非公然活動家を逮捕した。